

労働図書館新着情報

今月の10冊

①渡辺聰子他著『グローバル時代の人的資源論』東京大学出版会(xv+275+xvii頁,A5判) 企業間競争の激化は、社員活力の引き出し、組織力の強化を企業経営者に求めている。本書は、日本・EU内企業の異なる階層に面接調査を実施し、モチベーションのパターン等を明らかにしている。仕事意識は、国の違いより階層の違いが大きくなると予想、日本と英米型のハイブリッド型人的資源政策を提言している。	⑥笹山尚人著『人が壊れてゆく職場』光文社(234頁,新書判) 権利・生活・人格が蹂躪されている職場が増えている。労働側弁護士である著者は、長時間労働、いじめ、解雇・雇止め等、携わった事件をもとに現代日本のホット・イシューである格差、ワーキングプア、貧困に対する各地の取り組みを紹介している。労働者の権利が実現され、健全な職場が再生されることを祈りたい。
②チャールズ・オリリー他著『隠れた人材価値』翔泳社(389頁,B6判) 平凡な社員が働いている企業は、大競争の時代、利益を上げることはできるのか。本書は、平凡な企業8社の調査記録である。人材こそが重要な資産であると信じ、社員のもてる価値を存分に引き出せばそれは可能であると著者たちは結論づけている。「社員への投資」等の具体策も提示、企業経営の参考となるであろう。	⑦矢野栄二編著『雇用形態多様化と労働者の健康』労働科学研究所出版部(x+290頁,A5判) 増加する非正規労働者の安全衛生面での管理方法の見直しが必要であるが、第11次労働災害防止計画では曖昧な取扱いになっているという。本書は、日本産業衛生学会ワーキング・グループの研究成果である。労働衛生と法律研究者の共同研究によって、既存研究のレビュー、非正規労働者の健康状況等が報告されている。
③牧野富夫他編著『格差と貧困がわかる20講』明石書店(256頁,B6判) 非正規、女性だから賃金が低くくいわけではない。合理的な理由がなければ、格差ではなく差別となり、貧困や社会的排除に結びつきやすい。日本大学経済学部での20人の講義と橋本イントロダクションで構成される本書は、格差社会の現状分析、未来予測、内外の現場報告等、格差と貧困の諸相を簡潔にまとめている。	⑧遠野はるひ他著『トヨタ・イン・フィリピン』社会評論社(363頁,B6判) トヨタを巡る労働関係の報道といえば、ジャスト・イン・タイムや現場・現物主義などの優れた生産方式に関するものがほとんどである。本書は2001年3月のフィリピン・トヨタ社での233人の解雇紛争を扱っている。労使関係も国際化の中で、本事件とフィリピン政府との関わり、労組の国際連帯等が紹介されている。
④NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班編『ワーキングプア』ポプラ社(248頁,B6判) NHKワーキングプア取材班による第3弾。韓・英・米との比較により、日本の解決方法を模索している。3か国に比べて危機意識が足りないとしながらも、一部の職場での懸命な努力もレポート。日本に必要な対策はなにか。社会的企業と労働者の連帯だけでなく、この悲惨な現実に対する政策的対応が求められている。	⑨塚崎裕子著『外国人専門職・技術職の雇用問題』明石書店(344頁,A5判) 専門的外国人の受入をといくら騒いでも、魅力的な職場を日本企業が提供できなければ、外国人に日本は選ばれない。本書は、職業キャリアの観点から、専門的外国人の雇用に関する先行研究を綿密にサーベイするとともに、需給両面の独自調査に基づき、専門的外国人の就労可能性を丁寧に分析、政策提言も行っている。
⑤NHK「名ばかり管理職」取材班著「名ばかり管理職」日本放送協会(205頁,新書判) 非正規のワーキングプア化だけでなく、正規管理職にも異変が生じている。課長=重役出勤=高給・高権限=No残業代との思い込みがあるが、権限もなく、時間管理されながら残業代のない「名ばかり管理職」は日本中に蔓延、本書を契機に、島田報告書後手付かずの状態にある管理・監督者の実態解明を期待したい。	⑩日本経団連出版編『ワークライフバランス推進事例集』日本経団連出版(246頁,A5判) 少子高齢化社会は、男女共同参画社会の形成と男性の働き方の変化を求めている。これに対して企業はどのような解答を出しつづめるのか。諏訪康雄教授の解説、有名大企業14社のワークライフバランス(WLB)事例により成る本書は、個人と企業と社会の関係の見直し、WLB社会の実現に大いに参考になりそうである。

主な受け入れ図書

(2008年9月に労働図書館が収蔵した主な図書)

① 人生戦略会議著『28歳からのリアル』WAVE出版(215頁,B6判)	③ 井上雅雄他編『講義仕事と人生』新曜社(iii+200頁,B6判)
② 雨宮処凛著『雨宮処凛の闘争ダイアリー』集英社(253頁,B6判)	④ 加藤卓雄著『第一線労働基準監督官の回顧録』歴研(189頁,B6判)
③ 村松岐夫編著『公務員制度改革』学陽書房(300頁,A5判)	⑤ 水口洋介著『労働契約』旬報社(142頁,A5判)
④ 布施哲也著『官製ワーキングプア』七つ森書房(ix+239頁,B6判)	⑥ 大内伸哉著『労働法学習帳』弘文堂(v+192頁,A5判)
⑤ 菅幹雄他著『アメリカ経済センサス研究』慶応義塾大学出版会(xii+354頁,B5判)	⑦ 大谷強他編『自治体雇用・就労政策の新展開』公人社(x+202頁,A5判)
⑥ 大竹文雄著『格差と希望』筑摩書房(242頁,B6判)	⑧ テンプル・グランディン他著『アスペルガー症候群・高機能自閉症の人のハロワーク』明石書店(197頁,A5判)
⑦ 日本経営学会編『企業経営の革新と21世紀社会』千倉書房(2+10+242頁,A5判)	⑨ 清正寛他著『定年前の仕事えらびを見る目に確かさを』成文堂(ii+134頁,A5判)
⑧ 日本経済新聞出版社編『ビジネスプロフェッショナルの仕事力』日本経済新聞出版社(xiv+184頁,B6判)	⑩ 日本ドリームプロジェクト編『働く人の夢』いろは出版(ページ付なし,B6判)
⑨ 関島康雄著『チームビルディングの技術』日本経団連出版(174頁,B6判)	⑪ 荒井千曉著『その転職ちょっと待った!』アスキー・メディアワークス(172頁,新書判)
⑩ 柳澤大輔著『この「社則」、効果あり。』祥伝社(219頁,新書判)	⑫ 橋本祐美著『勤労女性の生活と介護の両立支援に関する研究』全国勤労者福祉・共済振興協会(132頁,B6判)
⑪ ロシアNIS貿易会ロシアNIS経済研究所編『07における雇用・労務管理の諸問題』ロシアNIS貿易会(iv+127頁,A4判)	⑬ プレインワークス編著『キャリア・マザーズ』カナリア書房(209頁,B5判)
⑫ 秋田福美著『これから10年女性社員を伸ばす者が勝つ』PHP研究所(197頁,B6判)	⑭ 上田晶美著『ママも今日から働くワ!』日本経済新聞出版社(239頁,B6判)
⑬ 内田和俊著『俺様社員をどうマネジメントするか』ダイヤモンド社(251頁,B6判)	⑮ 月沢たかね著『ハゲンは見た!』高陵社書店(237頁,B6判)
⑭ 小笹芳央著『なぜ、できる人から辞めていくのか?』大和書房(205頁,B6判)	⑯ 姫岡とし子他著『ジェンダー』ミネルヴァ書房(xvii+348+23頁,A5判)
⑮ マイケル・P・ライター他著『バーンアウト』金子書房(xv+187頁,A5判)	⑰ 門倉貴史他著『貧困大国ニッポン』宝島社(206頁,新書判)
⑯ 津曲公二著『実践!プロジェクト・マネジメント』PHP研究所(174頁,A5判)	⑱ 雨宮処凛他著『生きづらさ』について』光文社(213頁,新書判)
⑰ 菅下清広著『ピンチをチャンスに変える極意(コツ)』産経新聞出版(215頁,B6判)	⑲ 青山紘一著『不正競争防止法』法学書院(18+299頁,A5判)
⑱ 北野一著『なぜグローバル化で豊かにならないか』ダイヤモンド社(194頁,B6判)	⑳ アラン・ブライマン著『ディズニー化する社会』明石書店(375頁,B6判)
⑳ 後藤道夫他著『なぜ富と貧困は広がるのか』旬報社(162頁,A5判)	㉑ 山ロー男著『ダイバーシティ』東洋経済新報社(iii+221頁,A5判)
㉑ 岩村正彦編『高齢化社会と法』有斐閣(ix+266頁,A5判)	㉒ 黒井勇人著『ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない』新潮社(413頁,B6判)

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書103,000冊、洋書26,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00

休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659

利用資格：どなたでも自由に利用できます

貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています